

第4期第9回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2019年4月22日（月）午後3：00～午後5：00

〔場 所〕 生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼 恵一（会長）、太田 まゆみ、大野 浩子、白崎 好邦、鈴木 忠道、
陶山 慎治、辰巳 厚子、服部くに子、向井 美子、米倉 茂
以上 10名

事務局：塩田センター長、大野管理係長、高木事業係長、中野担当係長、岩田担当係長、鈴木担当係長、三橋主任（記録）

〔欠席者〕 ※敬称略

古里 貴士、堂前 雅史 2名

〔傍聴人〕 2名

〔資 料〕・第4期生涯学習センター運営協議会委員名簿（2019年度）

- ・2019年度生涯学習センター課の仕事目標
- ・2019年度第1回委員会運営委員会資料
- ・第9回運営協議会の議論についてのご希望（事前送付資料）
- ・資料4について事前提出のあった意見
- ・第7回運営協議会委員発言要旨（一部抜粋）
- ・市民ニーズの視点からみた生涯学習センター事業のあるべき姿

開 会

会 長：第4期9回の生涯学習センター運営協議会を始めます。

委 員：始めに前回のことで確認したい。1点目は前回最後のところで発言を遮られた。理由は何であろうと発言は遮らないで最後まで聞くこと。2点目はニュートラルに徹すること。「提案に対して、すぐ変わるものではない」などと言ったらアウト。事務局に検討を促すことぐらいはあってしかるべき。できなければ進行役は他の人に任せたほうが良い。会長に対して苦言です。

会 長：失礼があったようなのでお詫びしたい。当たり前のことなので、そういう形で進めたい。

新年度になって人の入れ替わりもあり、この第4期運営協議会も残り1年になった。年号も新しくなり最初の一步になると思う。

1 はじめに

<新任委員委嘱書の交付及び自己紹介> (略)

<副会長の選出について>

事務局：岩本委員が退任され副会長の選出が必要です。学識経験の中から調整させていただき、今日欠席の古里委員から受諾の返事をいただいたので提案したい。

会 長：事務局から提案いただいた。いかがでしょうか。

全 員：異議なし。

2 報告事項

(1) 生涯学習センター職員の人事異動について (略)

(2) センター長報告

- ・3月の市議会は、2019年度の予算審議等が行われたが、生涯学習センターに直接係る一般質問は無かった。
- ・5月11日土曜日に障がい者青年学級に係るイベントとして、「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」を市民ホールで開催する。ここ数年は2年に1度、実行委員会形式で開催していたが、昨年度、文部科学省の「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」を受託したため、生涯学習センターの事業に組み込む形で実施する。
- ・2019年度の生涯学習センターの課の仕事目標について、6点掲げ実施する。

<質疑・応答>

委 員：仕事目標について中間報告はあるか。

センター長：9・10月頃に中間確認を行い、見直しが必要なところは見直す。その時点で公表し、最終的に年度末でまた公表する。

委 員：その際に、ここで事前に報告できるか。

センター長：行います。

会 長：「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」は従前有料だったが今回は無料か。

センター長：文部科学省の受託事業として無料で行う。

(3) 東京都公民館連絡協議会の活動について

- ・都公連委員部会について、昨年4月から今年3月まで1年間、町田市が委員部会の部会長市になり無事終了した。1年間の活動記録は小金井市がまとめたものである。
- ・16日に小金井市の公民館で第1回委員部会が開催され、活動方針・日程が承認された。各市

との情報交換・年2回の研修会がメイン活動になる。情報交換のテーマはP4.5に挙げているが6テーマ位に絞るため、皆さんが聞きたいことなど3項目位挙げて事務局へ伝えてほしい。

- ・9月7日に第1回研修会が小金井市で開催される。テーマと講演者を各市から提案することになっている。提案を事務局に伝えてほしい。(資料3)
- ・第59回関東甲信越静公民館研究大会が8月22・23日に宇都宮市で開催される。

(4) 2019年度まちチャレ選考委員について

事務局：市民提案型事業・講座づくり・まちチャレ事業について、これは、「市民3人以上が集まり講座づくりに町田でチャレンジしませんか」ということから「まちチャレ」という愛称とした。講座づくりは担当職員二人がついて講師・テーマ等について一緒に考えていく。会場・PR・チラシ作製は生涯学習センターが実施し、講師との交渉やきっかけづくりは市民が実施する。

- ・選考委員について運営協議会委員から5名の方をお願いした。5月12日に申請者のヒアリング兼選考を実施する。

<質疑・応答>

会 長：説明会にはどのくらいの参加があったか。

事務局：20団体位、昨年度は11団体だった。赤ちゃんを連れた団体や高齢の方の団体など色々な団体が参加した。

委 員：前回までの学習講座は連続しないと成立しないというのがあったみたいだが、たくさんチャレンジする方がいるのであれば、2回から5回となっている回数を1グループが5回するのではなく、2回と3回に分けて2つのグループにチャレンジしてもらったほうが、「まちチャレ」に合致するのではないか。自分たちが講座を作るそのプロセスが学習であるにとらえて、色々な形でチャレンジする方法があってもいいのではないか。

事務局：2回以上であれば良く、2回や3回の団体であれば団体数は増える。予算の枠内で実施する。

会 長：最近5回が長いという印象もある。じっくり実施するには良いが、忙しい方が対象だと2回や3回が良いという感覚もある。

委 員：なるべく、やりたいという団体を多く受け入れてほしい。

事務局：それを目的としている。

会 長：やる気をなくすような審査ではなく、やっていこうと前向きになれる選考ができれば良い。

委員：地域は町田が中心か。

事務局：選考項目に地域資源などを活用した内容を重視すると説明している。

3 議 題

(1) まちだ市民大学HATS事業検討委員会について

事務局：運営協議会でも事業の検討をしていただくため検討委員会に3名の委員を、その他市民大学の各プログラム委員から7名参加いただく。事務局としては、堂前委員が自然と環境のプログラム会議座長をされ、運営協議会委員にもなられ、兼務していただきたいと考える。辰巳委員も人間学の講師を務めていただき他市の状況も詳しくため入っていただきたい。あと1名は検討が5回のみのため、市民大学をご存知の方に参加していただきたいと希望している。

委員：色々な講座を受講し、「生涯学習センター事業のあるべき姿」について考査しているため参加を希望する。

会長：以上、事務局説明と参加申し出があった。承認いただけますか。

全員拍手

会長：5月から8月頃まで短時間の検討になるが、運営委員会を代表して出ていただく。残った委員もバックアップしていきたい。

(2) 「市民ニーズの視点からみた生涯学習センター事業のあるべき姿」について

会長：議題について改めて説明する。第4期運営協議会では第1回から今期のテーマについて意見をいただき検討を進めてきた。第1回で岩本副会長から社会教育・生涯学習の現状について講演いただいた。第2回は審議会の方針案、第3期運営協議会報告書「地域における学習支援—生涯学習センターの役割と機能—」について説明。「町田市生涯学習に関する市民意識調査報告書」の勉強。第3回で運営協議会の今後の進め方について、自分が関心のあるテーマについて事前アンケートを取り話し合いを行った。第4回は上半期の事業分析を行った。第5回は生涯学習推進計画の策定状況を検討。第6回で議論するテーマを決定。第7回は、岩本副会長から「市民の学習ニーズをどう見定めるのかポスト平成・生涯学習の展望」というテーマで話をいただいた。平成元年に文科省が生涯学習局をスタートさせ世間的に認知され、奇しくも平成が終わる時に生涯学習という名称の局がなくなり次の新しい時代を迎える。社会教育と生涯学習の状況、今後に向けての話を伺った。また、市民の教育ニーズは色々な市民がいて多面的であり、同じ立場の市民であっても深いところから浅いところまで色々なニーズがあり市民の教育ニーズを改めて認識した。(第7回会議資料を配布)

2019年度のこれからの取組の進め方としては、この期の終わりに報告書をまとめるスケジュール提案をさせていただいた。市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進、先ずはこれまでの検討結果を踏まえ、市民ニーズの多様性、重複性も踏まえ、市民ニーズ視点から見た生涯学習センター事業の在るべき姿。ちょっと理想論に近いが話し合っていきたいと考え、事前に意見を出していただいた。今後の案としては、あるべき姿をふまえ、次回第10回には具体的に事業を絞り、その後はいくつかの事業の優先順位をつけられれば、あくまでも実現可能なものでなければならないので、現在の生涯学習センターの事業体系で組み込めるもの、数年かけて実現可能なものなど関連付けて報告書を作っていければ。いくつか出されている意見と、第7回の要約された発言内容をもとに、全員から意見を聞きたい。

委員：議論の時間が短い。昨年1年間議論してもそんなに進まなかった。どこに焦点を絞るかしっかり議論してから議論に入るほうが良い。

1点目は、この「あるべき姿」に少し疑問を感じている。私たちは、今よりセンターを「魅力的にしたい」「多くの人に愛されたい」「皆に認知して欲しい」と思うのならば、「あるべき」は道徳論的で、「こうでなくてはいけない」という姿ではなく、むしろ私たちが新しいものを生み出したいと思うのならば「あるべき」は違うのではないかと思っている。もっと私たちが夢を語れるような「生涯学習センターのビジョン」としたほうが良いのではないか。

2点目は、報告書を作ることを前提に議論することに疑問を感じている。1回目の運協は報告書を出さないで評価表を作り直した。報告書を作るよりももっと実践的なことをしたほうが、例えば小さくても一つ新しい講座にチャレンジしてみる、新しい学習方法（単に講義を受けるだけでなく）などを考えていくことも一つ。必ずしも報告書にこだわる必要はないのではないか。

3点目は「市民ニーズ」について、最初に議論しなければいけないと思う。ニーズはというふうにするのか。昨年、文科省の生涯学習に関する世論調査で、ニーズというと今一番高いのは語学学習が現れる。ニーズだけでなく、「ウォンツ」まだ表に出ていないが触発されるもの。例えば、語学講座ならば生涯学習センターでなく民間教室等で行える。例えばオリンピックを機会に市民が海外の人と触れ合うのは単に語学だけではないかもしれない。スマホの翻訳機を使ってスペイン語でコミュニケーションをとる。コミュニケーションの取り方とは何なのか、色々な外国の人たちと交流する多様性とは何なのかなど、単なる語学講座とは違う生涯学習センターで市民のためになる講座もあるのではないか。最初にニーズやウォンツの言葉の定義をしておく色々なアイデアが市民や職員もやりやすい、新しいチャレンジなど出せるのではないか。

委員：「あるべき姿」について、理想的なことはわからない。私が仕事で使っていたのは「あるべき姿」ではなく「ありたい姿」だった。「ビジョン」とか「ありたい姿」という表現のほうが良いのかなと話を聞いて思った。

会 長：目的としては、新しいチャレンジとか、新しいアイデアを生み出していきたいというのが、私の意図でもある。それが「あるべきすがた」と問いかねられると答えにくい。この席は、新しいアイデアとかチャレンジを自由に出し合っていければ。「あるべき姿」でなく、「ありたい姿」に発想を切り替えて、これから議論していただければ。

委 員：〇〇委員の意見に賛成。関連して配られた「市民ニーズの視点から…」のサブテーマについては何の議論もしていない。このサブテーマの内訳は「市民ニーズ」が枕詞になっている。これでは議論しても何も出ない。私の提案は、「市民ニーズとは」を1回議論して、次に「市民ニーズに沿う」とはどういうことか、それで初めて3回目に「市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進」が出てくる。議論の出し方として、意見を出せと言われても困る。市民ニーズとは何か、次に寄り添うとはどういう意味か、そのイメージがあってから「市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進」が出てくる。3つに分けた場合、それぞれのテーマで現状認識・問題点・改善の要件の3つを議論したら方針が出てくると思う。また、これについて、答えられないという趣旨のメールを送った。

<事務局からメール文書を配布>

会 長：「市民ニーズ」はキーワード、問題の出発点で重要。センターが行っている事業が上手く噛み合っているか、噛み合うことが理想。市民ニーズを離れて議論はできない。

〇〇委員の「報告書が前提になっている」というのは、議論したことを可視化している。具体的にイメージする作業の一環として記録として残すことはあった方がいい。報告書を前提としているのではなく、記録を残すという意味合いでとらえていただければ。以前、評価表を変更したのも、形に表して成果とした。何らかの成果を目に見える形で残していければ。報告書を前提にして考えているとは当たらない。

委 員：多分、やることが大事。報告書を書いてやらないということはないという話だと思う。

委 員：前期の報告書をよく読んだが、「なんじゃこりゃ」答えは何もない。議論のまとめ方に対する考え方として、観念先行型、理念先行型、現状追認型でもどちらでもない、市民ニーズに沿えるような市民生活に密着した問題解決型または課題解決型の施策展開が必要であるというのが私の意見。観念先行型・理念先行型の定義とは、具体的事実に基づかない頭の中で組み立てられただけで現実に即していないさまと世の中では言っている。観念先行型、現状追認型ではない、もっと問題解決型・課題解決型の施策展開をしたほうが良い。報告書はそういう方向でまとめられるとよい。前期の報告書は皆さんがやられたんでしょ、具体的に今どうなっているのかフォローできていない。かつ、この運協の進め方も見直した方がいいという提言があった。そういうところは真剣にフィードバックしたほうがいい。

会 長：意見は承った。メールの話をお願いします。

委員：最初にいただいた、「あるべき姿」は〇〇委員の印象と同じだが、決めたテーマは、市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進についての筈が、いきなり別のテーマがきたが、これは何ですか、何回かに分けてやるのであれば、サブテーマそのものや、何回かに分けて議論するといった方針まで、協議会で議論すべきものではないか。市民ニーズとは何か、その市民ニーズに沿うとはどういうことか、そのための事業推進はどうしていくべきか、の3つでまとめるべきである。「市民ニーズ」を単なる枕詞として使うのをやめましょう。

会長：もう少し市民ニーズを深く定義するとか。

委員：会長の市民ニーズのイメージと皆さん全部違うんです。そこで、こんな感じかなというイメージを合わせておかないと、その先が出てこないはず。市民ニーズについて皆さんどういうふうにとらえていて、また、それをくみ取る仕組みは今どのくらいできているのか。そういうことを含めて、それだけで3回やってもいいと思う。それでイメージが決まれば、あとは会長言われた通りやることはきまっているのだから、粛々と進めてもらえればいい。ここでやるべきことは、〇〇委員が言われたように、もっと大事なことを議論してイメージ合わせて、それが決まればあとは付録のようなもの。去年テーマ決めた時に市民ニーズに沿ったということで、イメージが合ったので、それで議論していけばいい。では、市民ニーズって何だろう。皆さんイメージが違うので。それを出し合っていた方がいいのではないか。

会長：次の委員の方の市民ニーズをどう考えているか聞きたい。

委員：少し整理したほうが良いと思う。1つは、市民ニーズとは何でしょうかを皆で議論しましょうということは確認できた。他にあるか聞いていただき、最初の議論は何からスタートするかを決めてはどうでしょうか。

会長：先ず文書を提出した委員から報告してください。

委員：「市民ニーズの視点からみた生涯学習センター事業のあるべき姿」について、どのような事業を充実・発展させるか、ということについて、皆さん方のまとめ方と違うかもしれないがまとめた。重点的に3つ上げた。市民ニーズというのは、自分の周りの人の意見、あるいは交流会などで市民から部分的に吸い上げられた意見などが市民ニーズという認識を今までしていた。岩本委員の話から、自由な学び、学ぶ権利がある、それに沿った仕組み・体制・支援をするというのが一つの市民ニーズのとらえ方であると改めて理解した。そうであるなら、市民大学事業は学びのスタートライン。昨年3月の報告書にも学習と社会をつなぐ循環型学習のことも触れられている。その前に16年に「市民大学再構築に関する検討報告書」をちゃんとやっている。そういうふうにとりあげられているということは、見直す必要がある。今年2月に検討会を開催するということなので、これまでも大事なことはやってきたと私は認識している。2点目は公民館事業の利用者交流会。これも色々な角度からより良いものにしていく必要がある。誰かが言っていた「交流の中から学ぶ。気づけば解決につながる」そういうことがあるから今大事。

3点目に、情報の発信。社会教育とか生涯学習情報の発信基地は生涯学習センター。良いことをどんどん発信するのが生涯学習センター。そういうことをもっとやっていく必要がある。もっと身近な自分の周りの話だが、公民館・生涯学習センターを利用して人にとっては生涯学習センターは無くてもならない場所という良いことを一杯やっているが知られていない。そこを何とかしたい。以上3点について充実・発展させたい。

会 長：〇〇委員の市民ニーズとは、自由な学びですか。

委 員：この観点から考えてみたい。

会 長：わかりました。ありがとうございます。そういうことからいって、あるべき姿としては、市民大学の学びを充実させるとか、あるいは利用者交流会でもっと活性化させていく。さらに加えて情報発信ということですね。

<委員が板書開始>

会 長：事前提出した資料に私のものがある。第7回の時にいくつかのコメントを話している。岩本委員の講演の内容は先ほども繰り返し言っているように、市民ニーズを岩本委員は色々あると。例えば利用している人と利用していない人、持続可能性を考えれば20年後50年後の将来の市民ニーズもあり得る。困っている人の学習支援、これも大きな市民ニーズ。今見えているものにはないニーズ。カルチャーセンター等と比較した議論だと思うが公的社会教育にしかできないこと。一般行政・福祉と連携するとか、地域での生涯学習をどうやって作っていくか、これも市民ニーズの一つ。私の発言はそれを受けて大雑把にまとめたもの。様々なレベルで一口に市民と言っても色々ある。全員を対象としては大変。優先順位を付けてやっていく必要がある。

〇〇委員は、国連のSDGsと同じではないか。ニーズというのは一般市民の目線で何が求められているのか。あとは、生涯学習NAVIでは発信はできるが吸い上げはできない。抽選式からエントリー式にしてニーズを吸い上げるという意見。

〇〇委員は、公民館はお金がらみを嫌う。それは行き過ぎではないか、もう少し考え直す時期に来ている。

〇〇委員は、福祉と教育を重ねていく。多様なところで小さくても学べる環境がいっぱいあると良い。地域で学べる環境をどう作っていくか。どう保証していくかということ、1館しかないこの中央公民館で検討していただくとやりやすい。地域ごとに生涯学習の機能を充実させていくべき。受益者負担の問題で費用を頂くのはどこかで線引きしてもらおうと地域の方でもやりやすい。

一方〇〇委員は、民間の資金を活用するというものと税金でやることは区別してやっていった方が良いと言われている。

〇〇委員は、小学生のうちから公民館・生涯学習センターに馴染むような機会をつくるべきだ。

〇〇委員は、届けたい人には届かない現実があるので、そういう人にどういうふうに出アウリーチしていくか、これは自分自身の問題でもあるととらえている。

最後に、私の意見として、今回色々な意見があると思うが、第3期の報告書は確かに具体的ではない。方法論であったり、方向性を示しただけの報告書になっている。言ってみれば、今回はそれをさらに具体化していこうじゃないかという提案。前回の報告書で言われたことは、連携協働の機能を強化すべき。その一つとして地域の学習の場との連携、地区協議会との連携、世代間交流、もう一つの柱として、ことぶき大学と市民大学の機能強化というものが提言された。今期はそれを受けて「市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進」に取り組んでいる。喫緊の課題に対応した学習支援というのは、今後、市民ニーズの大きな一つだと考え、生涯学習センターとして取り組まなければならない課題だと思っている。具体的には色んな取り口はあるが、例えば地域の人材を生かすための学習支援・人づくり。もう一つは地域の組織をつなぐための学習支援・繋ぐ役割。また、地域課題解決のための学習支援・地域づくり。この3つの視点から具体的な実現可能な方策を検討したうえで市民の意見を取り入れながら本当に必要とされているか明らかにして事業内容を策定すべきである。その中で、特に人づくりのために、私自身が課題と思っているのは、高齢退職者の地域生活を充実させることではないか。これが、全ての問題のスタートになるという位に考えている。つまり、今までサラリーマン生活していて、いろんなものから離れて地域の中にぽつんと残されてしまった。自分が働ける場や生きる中で活躍する場を見失っている人がけっこういる。そういう人がどうやって地域に定着していくかというところで、自分から発信する場合もあるし、いろんなことを勉強しながら地域生活はこうすれば楽しくなるみたいなそういう学習をすることによって、地域と馴染んでいく。そして地域の中で力を発揮していく、ということが理想だと思う。そのための手助けをするような。そのための学習支援が一番のスタートになるのではないか。その次に何か社会的貢献だとか、いろんなものを考えられる人が出てきたらその人に対する、こういうことがありますよ、そのためにはこういうスキルを向上させる必要がありますね。高齢者だけでなく、子育て世代や若者との協働もその中に入ってこななければいけない。あと、地域の組織とつながることが重要だが、地区協議会も関連してくる。最後の地域課題の学習は地域ごとに色々な課題が別々にあるので、なかなかひとくくりにやれないところがある。大きく分けて健康の問題、福祉・子育て・高齢者・障がい者というものの課題は少なからずいろんな地区である。保全だとか防災、最後に孤立化、孤独死の問題、一人暮らしの人がどんどん増えていく中で、コミュニティが厚く包容もって、そういう人たちを孤立化させない仕組みが作られるような、そのための学習支援があるのではないか。これを、具体的に実現していくような方策を周知していくことを考えてみた。

以上が今まで出された意見。まだ、伺っていない方が何人かいるので。市民ニーズあるいは、ここはどういう事業をやればもっと町田は良くなるぞとか。新しい切り口で考えていただければ。

委員：市民委員が10万人ぐらいいます。それぞれのニーズが違う。トップ10・人気の高いもの、それについては今までもセンター含めてやっていると思う。新たにプラスしたこういった事業はどうかということかなと思っていたが、今話を聞いていてどういう方向に議論が向かうのかまだぶつぶついているところかなと思っている。

委員：私はこれをもって考え込んでしまって書けなかった。市民ニーズとはと言った時に私の中で浮かぶ市民は、現場に来る若いお母さんや、0から高齢者まで目の前にいる人たちが浮かんでしまう。あるべき姿、その人たちがどうあるべきなのか、悩んで書けなかった。今聞いていてもったいないなと思ったのは、それぞれいろんな分野でご活躍の人たちがいっぱいいるのに、この重い空気の中で何も発言できなくて、高い税金投入されてこんな1回の会議やっているのにみんなしゃべらないで帰っちゃうの。葬式みたいな、やだな、〇〇さんだってすごい面白いこと鶴川団地でいろんなことかんでいる。いっぱいいろんなことやっている。〇〇さんだって学校使って連携に苦労されてやっている。それをここで引き出さなければ、私たち何のためにここに座っているのかと思った。難しいこと・図書館のあるべき姿なんて言われると分からない。ハードル下げて活発な意見の中から議論していく中で、色々なものを委員に拾い上げてまとめてもらうぐらいの感じで。時間がもったいないと思ってしまう。

会長：どうしたらいいでしょうか。

委員：一個前の報告書すごい作った。私はあまり携わってないが、途中までできたのを読んで、何回読んでも‘これのためのやつがここだから’みたいな、組織図・ものすごく難しく、あんなご立派なものを作って誰が読んでくださるのか。これの影響・私たちがこんなに頑張って何回も投入して「ぐっと変える力は持っているんですか」と当時聞いてみたときに、教育委員長が「参考にさせていただければ」ぐらいだったと記憶している。であれば、報告書はおいといて、毎回の議事録のまとめ位でいいのではないかな。報告書を考えて口が出せなくなる。

文書出してないので、口頭説明する。先ずはうちの小学生だけではないと思うが、「町田市の公民館どこにあるか知ってる？」と聞くと、知っている子は、そんなに高いパーセントではない。ここの場所すら分からないということは、その親も知らない。親が知っているらと今度公民館でこういう行事があるから行こうと連れてこられた子は分かるのではないかな。来る人は何度も来ているが、来ていない子は一度も来ていない。これはここの問題というよりも、小学校3年生になると初めて社会科というのが出てくる。社会科の身近な地理の中で、ほとんどの学校が地域巡りとか近所を回る。近所には必ず徒歩圏内に小規模・中規模のコミュニティセンターがある。そこは説明する。うちなんかだと、コスモス会館とかサクラ会館があって、こういうところで地域のお葬式やることもあるし、習い事の拠点になっている。ここは紹介されない。ここの近所の学校は来ているかもしれないが、遠くの学校は。だから社会科見学のコースに入れないとダメ位に思う。わざわざ来るのが大変ならば、カリキュラムの中に先ずは町田を知るということで市役所の場所と公民館を。公民館は私が小さいときはもっ

と身近なもので、ここで何もかもをやるのは無理だが、3歳児健診からそれこそ今だとがん検診から、なんか、ちょっとしたコンサート、少年スポーツ、体育館もくっついていろんなことをやっていた。

そういう、市民の拠点というかよりどころみたいなところにならないと厳しい。分母も住民の数と場所の一角とスペースの問題等色々あると思う。ここで色んなこと講座をしゃかりきになって考えるということがニーズということではなく、〇〇さんがやっているような、各地域の中規模コミュニティセンターの拠点で「こういう面白いものをやっているよ」「これ、小山のほうでもやれるんじゃない。」「成瀬のほうではどうか」というコーディネーター役が必要。講座に関しては、〇〇さんが市民ニーズの吸い上げ方と言ったが、市民に何やってほしいかと聞いても出てこないと思う。こちらが、こういうものが良いのではないかと考えるしかない。聞いても、今あるものしか出てこない。やっている高木さんなんかは、オリンピックが近いので、こういうことはどうだろうなど。私は3年目だが毎回はっとさせられ「こういうコンサートどうだろうと目のつけどころがすばらしいと思う。ずっとやってきた方のアンテナを感じる。それこそ「まちチャレ」はニーズ。〇〇委員が言っていた、全部吸い上げられないが、20団体それぞれがニーズなのではないか。あのままだ無理だが、予算の関係で何団体しかできないが。こういうニーズがあるんだという形を組み込んで、実際に実現するには、どこの場所でどんな形で3回ぐらいの講座でできないかみたいなことを新しい講座として毎回、まちチャレとしてやってもらうには、すばらしいと思う。市民が実際作り手となって教育されるのもすごいと思った。市民と職員がすり合わせてやっていく、時間と手間がかかるわけで。「なるほど」ってアイデアだけもらってこちらで再構築するというのは早いのですばらしいのではないか。とにかく、小学生がここで今企画しているものに来いといっても、市民の分母からして小学生の数を分子とした場合、すごい小さいわけで、そこにスポットをあててここでそんなイベントを組むことはないと思う。しかし、ここに来るような仕組みをどうにかできないか。なので、8月の平和に子どもたちのものを展示すれば、親たちは子どもを連れていそいそと見に来る。「公民館ここにあったのね。知らなかった」って、毎回聞く。うちは、平和の絵手紙もらって、毎年4年生がやっている。今年でうちの学校4年目なので4学年分ぐらいが来ている。そんな形で色んな学校がちょっとずつ、特定の学校だけが何度もいうのではなく、いろんな学校がくる、我が子のものがあれば親は来るので、小さい内からここを知って、もしくは親が知ってという仕組みを作っていくと自然で良い。

委員：町田市民全体に「一人ひとり何が学びたいですか」というのが市民ニーズだとしたら、それはなかなかまとまらないだろうという気がしている。僕は、常々言っているように町田市ってほんとうにエリアエリアでいろんな文化が違う。さすがに4つの村がくっついたんだなという気がするぐらいニーズが違うので、地域に生涯学習センターがあるということが原理の予測だということからスタートすると。例えば僕が一番関わっている鶴川地域をどういう地域にしたいでしょうか。皆さんが言っているニーズの吸い上げは、月1回三水スマイルやっていたり、いろんな案件だとか、今回ラ

インの公式アカウントに地区協議会として、そこにメールのやり取りを双方向でできるようになった。今上がっているのは鶴川地域の防災計画を作ってみよう。そうなる
と、地域の防災計画を作るために皆で学んでみようとなったり。市がふるさと納税使
て、母子家庭にお弁当良かったら食べない、という募集始めたけど、3千世帯に配
て、ものすごいリアクションあって、その一人子どもを育てながらただでさえ大
変な思いしているかというレポートがどんどん上がってくる。これは一つのニーズだ
と思う。鶴川は特殊詐欺被害を地域の力で減らしましょう。町田警察からとっても遠
いし、でも銀行のATMが多くて被害額が町田市1位で全国1位だったりする。な
ので、地域のニーズというと特殊被害を無くそうということ、一人で頑張って子
どもを育てているお母さんをどうやって皆でということ、あと、鶴見川があたり、
がけが崩れるハザードマップがあるので地域で防災計画つくりましょう。それにつ
いて、皆で一斉に学んでいくということが必要。生涯学習が地域ニーズに応えるた
めの人材育成ではないというお叱りを受けるのも承知のうえだが、そんな風な思
いがある。あと、大きなニーズは送迎付きなら行けるのにというのが増えてきた。
だから、鶴川第2小学校の空き教室でやっているのや悠々園でやっている悠々学
園という学びというテーマで高齢者の方に来ていただいたり。三水スマイルで
やっているのも迎えに来てくれないかというニーズが増えてきている。それもニ
ーズだと思う。どんなプログラムを展開するかだけでなく、どういう学びの環
境を整えるか、どういう立場の人でも参加できる環境を作っていくこと。三
水スマイルで毎月やっている生涯学習センターの講座は今年からはユーチュー
ブで動画を撮って。鶴川地区協議会の三水スマイル学びというのを、公開し
ていて在宅で学べるというのも必要。具体的にはニーズとして送迎付きと動
画の配信と思っている。

委員：皆さんの意見を聞きながら、場違いなところに来てしまったかなという気も
したが、障がい者の親の立場として色々考える。青年たちがこの町田で安全に
安心して暮らせるにはどうしたらいいのかということ、常に息子が生まれてから
ずっと考えてきた。あの子たちをどのように育てれば、あの子が幸せに一生
涯を地域で安心して暮らしていけるのか考えてしまう。今まだ道半ばだが、
青年たちが日々の生活の張りとか、ここの青年学級もそうだが、余暇の活
動として青年学級はすごくいい学級。私たちが今まで、生まれてから色
んな思いをして、育てて小学校卒業し中学校卒業し、町田の丘学園の
高等部を卒業して色んな道がある。今は特例子会社や一般就労だとか色
んなところがある。でも大半は、福祉作業所・生活介護・B型支援・A
型だとか、その子どもたちが学齢期まではすごく守られるいろんな
ところで、デイサービスだとか、学童だとか。でも18歳を過ぎた途
端行き場がない。それを救ってくれているのが生涯学習センターの
この自由である青年学級。もう青年学級ができて45年近くになるが、
親としてすごくありがたいと思っている。私たちが求めるとしたら、
それぞれ自分が求めるもの、学びたいものそれがニーズだと思う。
だから個々に違って当然だし、青年たちも個々に色んな思いを持
っている。それを大事にしながらこの障がい児教育というか、障
がい者の施策についてはここでも議論していただきたいと思
う。今一番の課題は今までも一杯言ってきたらと思うが、担当者不足と場所の確

保。それによって今まで受け入れられない青年たちがまだまだたくさんいる。「今年はいれたわ」って喜ぶ人もいる。「今年も外れてしまったわ」という方もいる。その人たち全部受け入れるためには担当者の増員と場所の確保が大事なかなと思っている。色々な地域で場所を提供して充実していただければと思う。

委員：書いてきたのを読ませていただく。市民ニーズについて私は、問題解決のための学びの要望ととらえている。今回、タイトルにあった、生涯学習センターとして市民のニーズに応えるためにどのような事業をより充実発展させるべきか、ということについて、皆さんの意見を聞いた中で私なりの考え方ということでまとめた。市民ニーズにあった事業であるかどうかについて、一般的には開催事業の成果や実績なんかで判断されることが多いと思う。一方では、市民ニーズは常に一定のものではなく社会情勢やその人のおかれている立場や環境などで変化していくと思っている。そういった目に見えない市民ニーズをどう掘り起こしていくか、手掛かりの一つとしては市民ニーズをさぐる引き出しを持つことだと思う。そのためには私が考えることは教育行政・一般行政・NPO等関係機関とのそれぞれの枠を乗り越えて相互連携・ネットワークづくりをすることが不可欠である。これはそれぞれ各機関が持っている、把握している課題だとか、市民ニーズとしてそれぞれネットワークで共有することが引き出しを作ることになるかと思う。また、生涯教育においては、〇〇さんと同じように子どものときからの、問題解決能力の醸成が大切だと思う。子どものときから学んできたその子どもたちが大人になり学んだ市民が市民を支えるといった、まさに持続可能な学習社会づくりにつながっていくということが重要だと思う。町田市では夏休み期間中に子ども向け事業がある。千葉市の生涯学習センターではその期間以外でも子どもたちが参加できるすごくたくさん魅力的なメニューがたくさんある。今、町田市にはことぶき大学事業があるのだから子ども向け事業があってもいいのではないかな。今後、子ども向け事業を充実発展させていけたらいい。最後に、せっかく事業を踏まえたとしても、情報が伝わらないでは意味がないので学習情報の発信力も強化するべきだと思う。

会長： 追加はありませんか。

委員：もう少し市民生活に密着した問題解決型が必要だと思う。そのためには、事実がどうなんで、だからどうなんだというロジックを作っていないと議論が空転すると思う。私が去年4月に来た時に、4年に1回やっているアンケートを見て分析した。それでこの半年はものを言っているが、ああいう貴重なデータを基にして、ちゃんと見て、みんなはどういうことを欲しがっているかをくみ取る必要がある。だから、あんたの言うてるニーズはなんだと言われたら、生活に密着したものが今はないねというのが私の主観で、客観的にはアンケートのデータをもっと分析したほうが良いのではないかなと思う。

委員：市民ニーズ、私は今のお母ちゃんたちのことや子どものことしか分からない。そういう場や、学ぶ場があることによって自助から共助の関係、それが一番大事だと思う。そういう居場所や活躍の場を求めているがそれが何処なのか、中々わからない。だけど、パリオなんかを有償で借りるとか、結構お金が高いようなものの、ご飯会とかそういう

のやっても結構な人気で埋まっていく。発信するお母さんたちは皆スキルを持っている。持っていないお母さんたちはお金を払う側で、持っているお母さんたちは提供する側みたい。今、若いお母さんたち見ても結構お金のやり取りが多い。ビックリする。タダで付き合える友達いないのかと思う位、20代30代後半ぐらい、ヨガだ、お料理だ、マクロビだ、何とかだってすごい。そういうを見ているとうまくマッチング、生涯学習とどう結びつくか分からないが、あんまり学びとかに特化しないで、そういう居場所も含めて親の関係作りで、別にフリマをやれて意味ではないがそういう体験した活動を発表してもらってもいいから何かそういう、今の若いお母ちゃんたちに合ったようなことをしていかないと来ない。子どもだけここに寄越せと言われても、渋谷の次に危ないと言われている町田の中心にどこの親がバス代使わせて来させるかと思う。だから学校が使うことが大切。学校が連れていく場所を親は安心するから。だけど子どもだけで低学年の子をここにと言っても親が出さない。

会 長：町田の生涯学習センターの間口は広いけれど、子どもだったら子どもセンターがあり、障がい者だったら障がい者相談センター、高齢者だったら高齢者支援センターだったり、それぞれに専門的にやっている部署がある。そことどうやって繋がっていくか、全て子どものイベントをやってしまうと、なかなかやりきれない。

委 員：それが学びと言うテーマだと地域がつながりやすいことを体感している。鶴川駅近辺の店主たちに地域の子どもに読んでもらいたい本をリクエストしてもらい、図書館にその本のコーナーがある。それを借りて読んで、その人のところに行くと、お駄賃みたいなお菓子がもらえる。きらぼし銀行の支店長が推薦した本は、ポプリホールの図書館貸し出しナンバーワンだったりする。読んだよって言って、繋がっていく。子育てとか、障がいとか、高齢とか、なんだかんだと地域縦割りに行政窓口作っているけど、そこを繋ぐのが学びというテーマだと繋がりやすい。

委 員：一緒に学ぼうよという方がつながるから、地域で皆で学ぼうよ。災害について子どもからお年寄りまで皆で学んでみようとか、そういうほうがまとまりやすいし、同じテーマでなるから、学びっていうのは繋ぐツールとしてはすごい。

会 長：だから地域でやればいいのか。なかなか壁が突破できない。上を通して戻ってくるみたいな。そこは市民レベルでやるのが一番手っ取り早いかもしれない。

会 長：委員が板書してくれたので説明してください。

委 員：書いたのを説明します。最初、「市民ニーズとは」を聞きましようということでしたが、皆さん色々出され、市民ニーズをくみ取る仕組みは、アンケートもあるが、もう少し検討しなければいけない問題として残っている。皆さんから出た意見は、どちらかと言えば、それぞれ皆さんの問題意識の中から生まれた具体的なもの。小学生に対して、退職者に対して、地域の色んな課題に対して、市民大学、お母さん方という問題もある。市民ニーズをどう掴むか、その中で出てきたそれはもう少し精査が必要だが、現場に来る人たちの声であったり、自分たちの周りの人たちであったり。まち

チャレなどまさにニーズの宝庫、これをやりたい、学習したいって言っている人たちの声なので、個々に違うし一定ではない。変化するものなので、ニーズはこれだとは言い切れない部分があるかもしれない。でも学習は、今私たちがやろうとしていることは、どちらかと言うと、今何をやる、個別には出たが、それはWHATの部分。なぜその学習が必要か、私たちは深めてみるべきか。地域課題の問題とか、孤独な人たちの問題とか、母子家庭の問題とか色々あると思う。どういう問題があって、なぜその学習が必要なのか、そこを絞ってそれで、じゃ何やりましょうっていうことにしていく、ということが、今皆さんが出してくださった意見を書いたもの。もちろん、個別に何を話し合うか決めたら、〇〇さんが言われたように現状と問題点のギャップを埋める改善点というのを私たちが最終的に提案できればいいんじゃないか。というのが今出た意見を整理したところです。

会 長：うまくまとめていただいた。時間ぴったりで、今日はすごい収穫があった議論ができたように思う。次は、なぜ学習が必要だとか、あるいはWHATとか。

委 員：それぞれの立場から出してもらって、じゃあ今年はこれにしましょうみたいに少し絞ってみるといいかも。

会 長：次回も来られますか。次回もこういうまとめしてもらおうと非常に助かる。次回もこの方式で行こうかなと思う。

委 員：次回も来ます。

会 長：ではよろしくお願いします。

次回までに、もう少し深めて議論したいものをまとめてきていただきたい。

4 その他

(1) 2019年度日程調整について

次回以降開催日程

第10回 2019年6月25日(火) 午前10:00～12:00

会場 生涯学習センター学習室2

第11回 2019年7月25日(木) 午後 6:00～ 8:00 会場未定

第12回 2019年9月27日(金) 午後 3:00～ 5:00 会場未定